

提言第16号 頸部手術に起因した気道閉塞に係る死亡事例の分析

事例7

< 事例概要 >

- ・ 50 歳代、甲状腺癌の患者。
- ・ 甲状腺片葉切除術、頸部リンパ節郭清術を施行。手術時間は約2 時間、出血量30 mℓ、手術終了後に抜管。
- ・ 病棟帰室時より嘔声、発声困難感があった。約4 時間後に発声困難感、顔面の熱感を自覚した。頸部腫脹は軽度で経皮的動脈血酸素飽和度（以下SpO₂） 99%。約8 時間後、頸部の硬結と腫脹を報告した。患者は側臥位を希望した。約10 時間後から、繰り返しナースコールがあり、息苦しさ、痰の出しにくさを訴えた。SpO₂ 95% から70% に低下し、息苦しさを訴えたため、吸引したところ、まもなく呼吸停止。気管挿管困難のため、開創すると約10 mℓの凝血塊を認めた。輪状甲状間膜穿刺を試みたが困難のため、気管切開術を施行したが、約2 週間後死亡。
- ・ 死因は、気道閉塞に伴う低酸素脳症。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。